

設楽発掘通信

No.33
平成29年
12月号

おおはた 大畑遺跡の地元説明会

今年度の六月から開始した大畑遺跡の発掘調査も終盤を迎えています。去る十一月十八日（土）には、地元の方々を中心とした皆さまに発掘調査の成果を見ていただくための説明会を屋内で行いました。

本来であれば、縄文時代の竪穴建物たてあなぶどうでの暮らしぶりを周囲の広大な地形のなかに身を置いて実際に体感していただくはずだったのですが、とても残念なことに、当日は朝方からまとまった雨が降り、発掘調査現場の見学は中止となりました。それでも、説明会には十七名の方々がお越しくださり、急遽設営した遺物・パネル展示会場で、調査担当者からの説明に耳を傾けながら、実際に出土した縄文土器や石器、遺跡や遺構の写真を熱心に見学されました。雨のなか、ご参加くださった皆さま、誠にありがとうございました。

今年度は、マサノ沢遺跡、大畑遺跡とも説明会は雨続きでしたが、今回は好天のもと、開催できることを関係者一同、心から願っています。

今回、マサノ沢遺跡や大畑遺跡でご案内する予定だった調査の成果については、詳細な日時はまだ確定できておりませんが、二〇一八年三月頃実施予定の「成果報告会」にて報告させていただく予定です。両遺跡とも現在も調査継続中で、日々新たな成果や出土遺物が増えておりますので、成果報告会では、より詳しくご報告できるものと考えております。成果報告会の日時や発表内容については、次号以降の「設楽発掘通信」や愛知県埋蔵文化財センターのホームページ等でご案内させていただく予定です。

（愛知県埋蔵文化財センター 早野 浩二はやの こうじ）



大畑遺跡の説明を室内で行いました（配布資料は www.maibun.com よりダウンロードできます）

マサノ沢遺跡の調査

マサノ沢遺跡では、十月中ごろにA区南半部とB区の空中写真撮影を行いました。下の写真はその時に撮影した全景写真です。撮影時、B区は遺構の検出を行ったばかりの状態でしたが、A区では調査が進み、様々なことがわかってきました。今号では、その中から配石墓・石棺墓と考えられる遺構を紹介していきます。

配石墓・石棺墓とは、地面に掘りこんだ土坑の壁や床に石を配したお墓です。縄文時代中期から晩期に作られたと考えられており、縄文時代後期(約四千年前)に最も多くみられます。東日本を中心に報告例があり、近隣の地域では長野県などで多く見つかっています。しかし、愛知県内ではまだ報告例がありません。

これまでの設案ダム関連の発掘調査でも、様々な石を使った遺構が出土しています。土坑に多くの石が入った集石遺構や、竪穴建物跡の中に石を組んで作られた石囲炉などがその例です。今回のマサノ沢遺跡の調査でも、いくつかの石を使った遺構が見つかっていますが、その中に配石墓・石棺墓と考えられるものがあります。上の写真にある土坑がそのひとつです。遺構の年代は縄文時代後期と考えています。土坑の大きさは約二・二m×約二・三m、うち石に囲まれた部分の大きさは約一・三m×約一・四mあります。壁面には約〇・二〇・五mの石を長辺に七〜十個、短辺に一個ずつ配しています。今回の調査ではこれ以外にもいくつか配石墓・石棺墓と考えられる遺構が見つかっており、それらを含む周辺の遺構からは骨のような小片が見つかっているものもあります。人骨かどうかはまだわかりませんが、埋葬された人のものでしょうか。

今回見つかった配石墓・石棺墓の詳細はまだ検証中ですが、貴重な発見であることは間違いないと思います。

(株式会社二友組 岩瀬大輔)



配石墓・石棺墓



全景写真(右が北)

大畑遺跡の調査

大畑遺跡では、現在C・D区の竪穴建物跡などの遺構掘削を行っています。現在の遺構数は大畑遺跡内で七百基近く見つかっていますが、遺構ではないものを合わせると二倍近くの「穴」を掘削しています。特に大畑遺跡では、近現代に植林が行われたため、木の根などの植生痕や、最近の掘削坑などの遺構ではない「穴」も多くあります。遺構とそうでないものを区別し、遺構の埋まる過程を調べるために、掘る際にいきなり全部を掘ってしまうのではなく、遺構を半截(半分だけ掘ること)したり、左の写真のように土層観察用のベルトを残して掘っていきます。

ベルトなどの土層を観察し、まず遺構であるのか、そうでないのかを判断します。遺構であると判断した場合には、その遺構が自然に埋まったものであるのか、人為的に埋められたものであるのかなどを確認します。そのことによつて、例えば柱穴のように掘ってすぐに埋めたような遺構なのか、もしくは陥し穴のように、一定期間、土で埋めていない遺構なのかという判断材料となります。その後、断面の写真を撮影したり、測量機械で測量し、断面図を作成します。その際、土色帖(土色を見るための色見本帳)を用いて断面の土色や土質の記録をとります。また、炭化物など含有物の有無を確認します。

それらの記録作業が終わった段階で完全に遺構を掘り上げていきます。一見すると手間のかかる作業のようですが、発掘調査としては必要な作業となります。また、一旦掘ってしまうと元に戻すことはできないので、簡略化できない作業となります。

(株式会社二友組 高木祐志)



D区の竪穴建物跡掘削風景(南西から)



遺構の写真撮影風景

遺跡の発掘現場は、様々な業種の人達が、それぞれの役割を果たしながら協力しあうことで成り立っています。今回は『調査補助員』を紹介していきます。設案ダム関連の遺跡発掘調査を管理している愛知県埋蔵文化財センターからは、調査を担当する調査員(管理員)が各遺跡に配置されます。その調査員と連携して調査を計画・進行させていく調査支援員のうち、考古学的な作業を担当するのが調査補助員です。調査補助員の業務には、考古学の知識と一定以上の発掘調査経験が求められます。実際に発掘現場で行う主な作業としては、作業員さんたちへの作業指示、調査で見つかった遺構・遺物の写真撮影等の記録作業、遺物取り上げ後の整理作業があげられます。それらの作業には、さらに細かい作業がたくさんありますが、やはり知識と経験がものを言う世界と言えます。この仕事の楽しみや大変なことは何でしょうかとよく聞かれます。各補助員でそれぞれ異なるでしょうが、筆者にとつては、やはり新たな遺構・遺物の発見が目に見えることと言えます。見つかった遺物から、その遺構や遺跡の時期や性格などが明らかになった時には、やはり喜びと興奮を覚えます。

逆に大変なことと言えば、作業員さんに作業指示をする時が最も気を遣います。自分のイメージするやり方であつたり、仕上りなどをいかに理解してもらおうか、物事を相手に伝えることの難しさです。これはあらゆることに共通することですが、常に自分への課題として頭にとどめていることです。段々と厳しい寒さが押し寄せてきていますが、ロマン半分、苦勞半分で今日も我々調査補助員は、遺跡の発掘調査に立ち向かっています。

(株式会社二友組 鷲坂有吾)

発掘現場で働く人々―調査補助員―

ちようさほじよいん

出土した遺物の行き先は？

設楽発掘通信二十八号では、愛知県埋蔵文化財センターの紹介をしました。県内各地で発掘調査を行って出土した遺物（写真上）は、弥富市にある愛知県埋蔵文化財センターの本部に運ばれ、そこで復元（破片を接合して、足りない部分は補い、元の完形品に近い形状にする）、実測（外形や断面形状、表面の文様などを図面にする）、写真撮影などを行い、よく調べた上で「発掘調査報告書」に掲載されます。そして報告書に掲載された遺物はすぐに探し出せるように収納して、愛知県埋蔵文化財センターでの作業は一応の終了となります。

さて、その後はどうするのでしょうか。遺物として遺跡から出土したものは、文化財として扱われますので、捨てるわけにはいきません。

ここからは遺物を扱う部署が替わり、愛知県教育委員会の埋蔵文化財担当組織である「愛知県埋蔵文化財調査センター」が保管することになります。そこで収蔵庫（写真下）に入られます。

収蔵庫に保管中の遺物にも動きはあります。各遺跡の年代を示すような重要



大畑遺跡出土・縄文時代中期後半の深鉢



収蔵庫（愛知県埋蔵文化財調査センター）

な遺物や珍しい遺物は、貸し出しを依頼されることにより全国各地に旅をすることもありますし、愛知県埋蔵文化財調査センターが展示や出前授業によって公開し、皆さんに見ていただく機会もあるかもしれません。

それでも、やはり出土品は地元で保管や展示が行われ、地元の方々が、この土器は町内のある所で出土しました、という説明で場所をすぐに思い浮かべていただけるなら、その方が出土遺物にとってもふさわしい気がします。

実は、本来の出土地に遺物を戻す「譲与」という手続きがあり、これにより出土した地元の地方公共団体に遺物を戻すことができます。文化庁は、平成九年に「出土品の取り扱いについて」という通知を出していますが、これには「出土品の保存・活用は、各地方公共団体が、その管轄する区域内において発見された出土品の譲与を受け、その責任において行うことが最も適切であるので（以下略）」と書かれており、遺物を地元へ戻すことを勧めています。この「譲与」は愛知県教育委員会と出土地の市町村教育委員会が話し合い、双方の条件が整えば実施されます。

県内では一宮市や稲沢市、豊田市、安城市、豊橋市、西尾市等で譲与の手続きが行われ、遺物が里帰りしています。

（愛知県埋蔵文化財センター 鈴木恵介）

設楽発掘通信 No.33 平成29年12月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)67-4161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun



印刷・協力

株式会社二友組